

演題名	重篤な肝蛭症の対応と肝蛭生活環の再現		
発表者 氏名	神戸 三希	所属	飯田家畜保健衛生所
<p>2012年2月、肉用牛繁殖農場で重篤な疾病が発生。1ヶ月間に成牛4頭中2頭が死亡、1頭が死産娩出。死亡牛は腹腔内に肝蛭幼虫を認め、肝臓(胆管)、胆嚢、十二指腸内に大量の肝蛭成虫を認める。死亡牛以外の牛も下痢、貧血、好酸球の増加、肝酵素の上昇、肝蛭卵などを認め、一連の疾病を肝蛭症と診断。肝蛭感染経路解明のため農場調査など対応を継続。6月、農場牛舎脇の水田で大量のヒメモノアラガイ(貝)を確認。肝蛭生活環の再現を試みるため貝を採取し当所で飼育開始。7月、貝の体内に多数の肝蛭レジア及びセルカリアを確認し動画撮影。8月、貝の飼育容器中に肝蛭メタセルカリアの付着を確認。これらから、この農場の肝蛭は牛舎脇水田の貝を介して生活環を確立していると確信。なお、2012年2月に成牛に集団発生したこと及び同年11月に5ヶ月齢の子牛に肝蛭卵を確認したことなどから、この肝蛭症は2011年産稲わらの採食によるものと推察。</p>			